



## 後期がスタートしました

10月2日(水)より後期が始まりました。1・2年生にとっては今が1年間の中間地点になります。また、多くの3年生にとっては、これから本格的な受験シーズン突入となります。

3年生においては、先日95名分の「大学入学共通テスト」志願票を発送しました。1月の共通テストに備えてしっかり対策をしてください。また、学校推薦型校内選考会により、学校推薦型選抜の受験者(大学49名・短大5名・専門学校29名)が決定し、受験者は面接や小論文などの対策に取り組み始めています。近年、受験の出願手続きをインターネットで行う学校がかなり増加しています。受験者は、情報を確実に入手し、不備のないようにしっかり準備してください。更に、就職・公務員希望者は、選考試験が終わり結果が出始めています。公務員試験の2次試験の対策にも力を入れてください。

1・2年生は、9月末にスタディーサポート、11月初めには進研記述模試が行われ、それらの結果から自分の学力を確認することができます。また、2年生は「コース選択」、1年生は「文理選択」の時期になり、本格的に進路研究を進める段階になります。将来を考えることによってこれから学ぶべき方向性が明確になります。科目の苦手意識のような目先のことだけにとらわれるのではなく、しっかりと情報収集をした上で保護者の方・先輩・先生など、周囲の人にも相談しながら検討するようにしましょう。

### 《10月の進路関係行事》

5日(土)	河合塾模試(3年)
8日(火)	分野別大学見学会(1年)
11日(金)	探求『自己実現力育成プロジェクト』 発表(1年)
12日(土)	ベネッセ・駿台記述模試(3年)
23日(水)～25日(金)	定期考査Ⅲ
11/2(土)	漢字検定
11/6(水)	進研模試(1・2年)



## ☆ 学校推薦型選抜について

大学全体の9割以上が実施している、一般選抜に次ぐ規模の選抜方式です。一般選抜との大きな違いは「出身高校長の推薦を受けないと出願できない」という点です。出願にあたっては「調査書の評定平均値〇以上」や検定・資格等といった出願条件も設定されており、誰もが受験できる入試というわけではありません。また、一般選抜とは違い多くの大学では「出願者は、合格した場合は必ず入学する者に限る」専願制の入試となっています(近年、他大学との併願が可能で併願制も増えてきています)。推薦入試を考える場合は、出願する上で制約があることと、原則第1志望校に限った入試であることを理解しておきましょう。

### 【指定校推薦と公募推薦の違い】

指定校推薦	大学が特定の高校を指定し、出願基準や人数が設定されて実施する入試方式。「合格率が高い」という特徴がある。(近年、準備不足のため不合格となる例が出ている) 勉強や部活動の成績などを評価する。選考は書類審査と小論文、面接のみの場合が多い。 *主に私立大で行われ、自分の在籍する学校が指定校になっていなければ受験できない。	
公募推薦	一般	大学毎の出願資格を満たしており、出身高校の校長から推薦された生徒が受験可能。評定平均値に基準があることが多い。選考方法は書類審査の他に面接や学科(能力)試験、面接、小論文などが必要となることが多い。 *高校の推薦基準と大学の出願条件を満たしていれば応募できる。国公立大学を含め多くの大学で行われている。
	特別	スポーツや文化活動における活動・実績などが評価される。評定平均値に基準があることは少ない。

## 【推薦入試対策ポイント】

### ○小論文

- ・志望校の問題タイプ、出題傾向をチェックしよう。
- ・できる限り多くの過去問を解き先生方に添削してもらおう。同じ問題でもベストの文章が書けるまで何回か書こう。
- ・進学希望の学科に関連したテーマ、社会トピックスには関心を持とう。
- ・学科の内容に沿ったレポートやプレゼンテーションには入念な準備が必要となる。

### ○面接

- ・志望理由は必ず聞かれる。明確に答えられるようにしよう。また、入学後や将来の、自分なりのビジョンを示すことも重要。
- ・言葉遣いやマナーも大切。模擬面接の練習は限られた回数で設定されているが、不安があれば個人的に先生にお願いしてみよう。

### ○書類審査・学力検査

- ・提出書類は楷書で丁寧に書こう。コピーした紙に下書きをし、先生のチェックを受けてから清書すると安心。
- ・志望理由書では、その学問を志したきっかけ・その大学を志望する理由・入学後の抱負や将来の希望進路などを明確にかつ具体的に書くこと。必ず先生にお願いし、構成や用語など不明瞭な箇所を指摘してもらおう。
- ・近年普及した「チャットGPT」の使用については、検索条件によって文章の質が変わってくるので、丸写しすると大学側に見抜かれてしまう恐れあり。材料集めに活用する程度にとどめよう。

## ☆ 進学情報 ～総合型選抜・学校推薦型選抜のポイント～

近年、総合型選抜や学校推薦型選抜（公募制）といった、いわゆる「年内入試」の志願者が増え続けています。その傾向や受験対策についていくつか挙げてみます。

### 【傾向】

総合型選抜を導入している私大数は近年九割を超えており、特に首都圏では志願者が大きく増加しています。更にそれ以上の幅で合格者が増えており、倍率が下がって受けやすくなっています。偏差値帯で中下位の私立大学では、他校との併願を可としたり募集定員を増やしたりと志願者確保に向けた動きが加速しています。

また、一般選抜との併願を可とする大学も出てきました。これを利用すれば年内入試で一定程度の大学の合格を確保しつつ、一般選抜で大本命に挑戦できます。併願を認める大学が増えているのは年内入試のトレンドともいえる動きで、今後もこの傾向は続くでしょう。

### 【受験対策】

部活動や生徒会活動など目立った実績が必要と思われませんが、それよりも入学後に何をしたいかがより重視されます。入学後にやりたいことをしっかり言語化できるような訓練が必要になります。例えば、志望理由書ではその学問に興味を持ったきっかけだけでなく、そこから何を考え何を得たか、それを踏まえて具体的にどう行動を起こすかが重要です。

もう一つ、読書が有効になります。例えば、看護学部なら『看護入門』、経営学部なら『ビジネス入門』といった入門書に目を通しておけば、面接で話す内容に深みが増すでしょう。

### 【学校推薦型選抜（指定校制）を選ぶ注意点】

「行きたいけれど一般選抜ではハードルが高い」と感じている大学の推薦枠があるのなら、利用するとよいでしょう。「楽だから」という安易な理由で選ぶのはよくありません。指定校制で受験するのなら、自分で大学のことをしっかり調べて行きたいと思える大学を選びましょう。

(参考：進路企画)